

が有つて仕た譯やない、マア堪忍し」

「悪氣で仕たんやなかうけども俺朝出で仕事に行かんならんで道具箱おもひを出しといたんやが何處へ持つて行たんや」

「焼けても明日から殴れる様にと思ふて玉造へ持つて行て預けたんや」

「そんな遠い處へ持つて行て如何するね、そいでお爺やんわいな」

「年寄が怪我をしたらいかんと思ふて安治川へ連れて行て預けて來た」

「そんな無茶な事を西と東へ分けて預けてるねがな、お前道具箱を取つて來て、俺お爺やん迎ひに行て來るで」

「俺は仕事に行かんならんで汝仕事を休んで取つといで、さよなら」

「オイ、そんな事をしたら俺仕事に行かれへん、手がぐれるがな……お政……」

「馬鹿にしてくさる……コラ婆」

「兄早うから何處へ行きやつたんや」

「何を吐してけつかるね、俺は酷い目に逢ふてるわい、コラ佐助」

「イヨオ……」

「イヨオやないぞ、此間のガンチキチンを忘れさらしたな」

「兄寝やるか」

「今頃から寝られるかい、飯を喰ふて仕事に行くわ」

「」

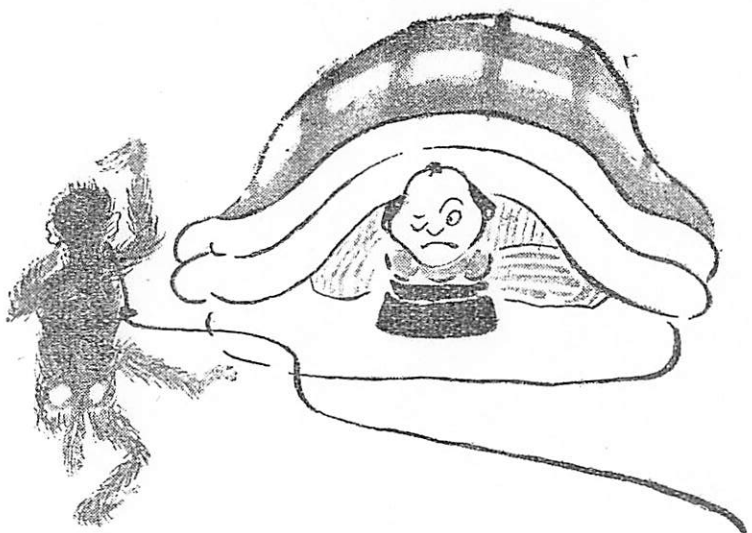
「ア、そうしやれ、そうしやれ」

「そうしやれ」

其儘御飯を食べて仕事に參りました。日暮れますと向ひの酒飲極道が

「ヨイトサノサちうやつちや、お母はんチョツと開けとくなはれや、母者人、昔の娘はん……」

何遍云ふても同じ事で、其の後に喧嘩極道例の無理を云ふて寝て仕舞ましたが、翌朝になるとお婆さんモウ起す機会しやがないので門口へかなくてきを持つて出て火をいこして茶を沸しながらポウとして居る處へ出て來ましたのが、此長家の奥に住んで居る與次兵衛と云ふて脊中へ猿を負ふて市中へ猿廻しに出る男



ふね了き